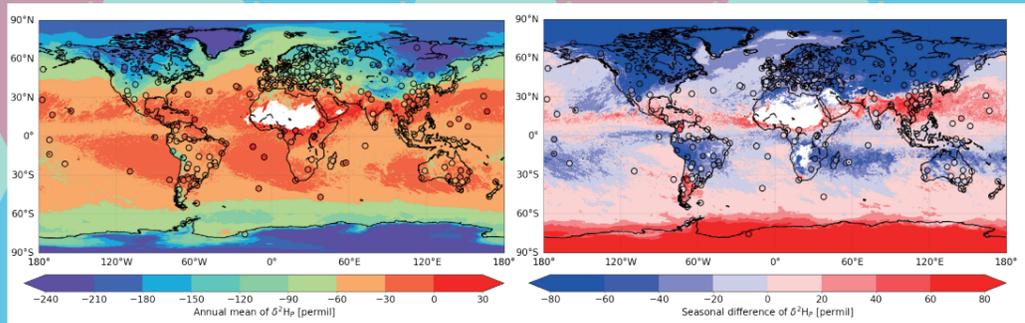
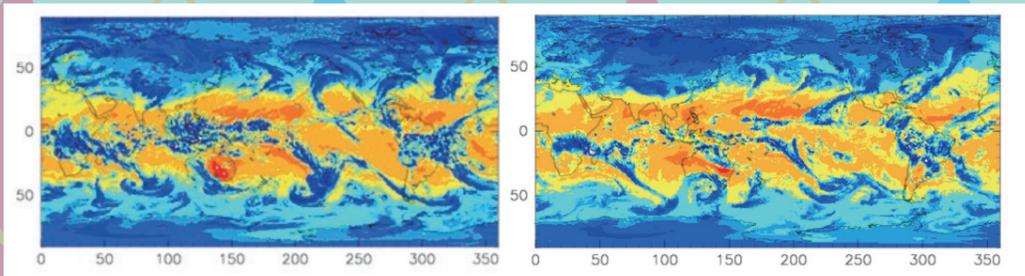
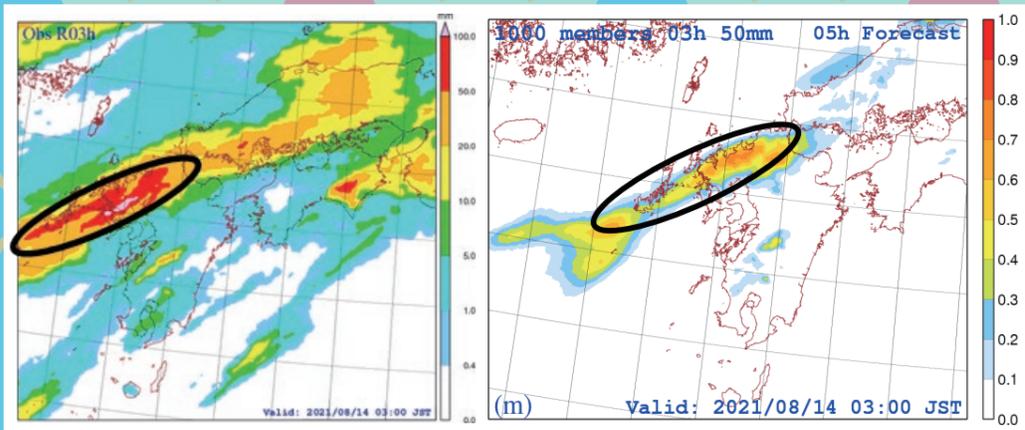


「富岳」成果創出加速プログラム

防災・減災に資する新時代の大アンサンブル気象・大気環境予測

2021年度 成果発表会



近年、毎年のように、集中豪雨や台風が襲来し、令和3年夏季には梅雨前線や停滞前線による豪雨で各地に被害が生じました。現在の科学的知見では、人間の影響が地球温暖化させてきたことには疑う余地がないとされ、温暖化した気候では極端な大雨や極端気象現象の深刻さが増大するとされています。本課題では、将来さらなる激甚化が予想される集中豪雨や台風等の極端気象現象からの防災・減災を実現するために、数日程度から数週間～季節スケールの大規模アンサンブルの気象・大気環境予測実験をスーパーコンピュータ「富岳」を用いて実施し、リードタイムをもった確率予測情報の提供が可能な新時代の予測技術の確立を目指します。本成果発表会では、本課題における2年目の成果を報告し、今後の富岳による気象・大気環境予測研究の課題について議論いたします。

2022年3月11日(金) 13:00-17:00 参加無料・オンライン開催・事前申込制

※本成果発表会は一般の方にもご参加いただけますが、専門性の高い講演内容となります。ご理解ください。

お申込み <https://cesd.aori.u-tokyo.ac.jp/fugaku/seika2021.html>

詳細・お申込みは上記アドレスにアクセスして下さい。
定員になり次第締め切らせていただきます。



主催

東京大学 大気海洋研究所

後援

一般財団法人 高度情報科学技術研究機構

お問合せ

東京大学大気海洋研究所 富岳気象課題事務局

メールアドレス：fugakuatmos@gmail.com

ホームページ：https://cesd.aori.u-tokyo.ac.jp/fugaku/index.html



第1部 成果発表会 13:00-15:45

- 13:00-13:05 宅間 裕子 (文部科学省研究振興局参事官 (情報担当) 付 計算科学技術推進室長) ご挨拶
- 13:05-13:15 佐藤 正樹【課題代表】(東京大学 大気海洋研究所・教授)
「**防災・減災に資する新時代の大アンサンブル気象・大気環境予測**」 課題の研究紹介」
- 13:15-13:25 川畑 拓矢【テーマ1代表】(気象研究所・室長 / 気象業務支援センター)
「**豪雨・強風に対するリスク予測**」
- 13:25-13:45 吉村 僚一【テーマ1】(東北大学 大学院工学研究科・大学院生)
「**冬季の南関東で発生する晴天乱気流の高解像シミュレーションおよび飛行中の旅客機への影響解析**」
- 13:45-14:00 雨宮 新【テーマ横断】(理化学研究所 計算科学研究センター・特別研究員)
「**富岳を用いた 2021 年夏の 30 秒更新リアルタイム降水予報実験**」
- 14:00-14:05 質疑応答
- 14:05-14:15 休憩
- 14:15-14:30 宮川 知己【テーマ2代表】(東京大学 大気海洋研究所・准教授)
「**高解像度全球モデルを用いた週～季節スケールの極端現象リスク予測**」
- 14:30-14:45 升永 竜介【テーマ2】(東京大学 大気海洋研究所・特任研究員)
「**高解像度全球大気海洋結合モデルを用いた季節内から季節スケール予報の向上へ向けた取り組み**」
- 14:45-14:53 八代 尚【テーマ3代表】(国立環境研究所 地球システム領域・主任研究員)
「**大気環境シミュレーションとデータ同化**」
- 14:53-15:15 田上 雅浩【テーマ3】(国立環境研究所 地球システム領域・特別研究員)
「**水同位体 NICAM 開発成果**」
- 15:15-15:30 質疑応答
- 15:30-15:45 ポスター発表紹介



三好 建正
【司会】



佐藤 正樹



川畑 拓矢



吉村 僚一



雨宮 新



宮川 知己



升永 竜介



八代 尚



田上 雅浩

第2部 ポスター発表 16:00-17:00

- ・大泉伝 (気象業務支援センター): 「令和 2 年 7 月球磨川の豪雨事例を対象としたキキクルを用いた Impact based forecast の試み」
- ・前島康光 (理化学研究所): 「令和 2 年 7 月豪雨を対象とした高密度 PAWR の観測システムシミュレーション実験」
- ・斉藤和雄 (気象業務支援センター): 「台風に伴う北向き非地衡風の PRE へのインパクト - 雲解像モデル実験 -」
- ・小林健一郎 (神戸大学): 「霞堤による洪水抑制メカニズムの分析 - 多数降雨アンサンブルによる影響評価に向けて -」
- ・平野創一郎 (琉球大学): 「大気海洋結合モデルで再現された 2018 年台風第 24 号の眼の中の深い対流雲」
- ・藤田匡 (気象研究所): 「変分法によるドップラー速度のスケール依存同化の検討」
- ・大石俊 (理化学研究所): 「高頻度海洋アンサンブルデータ同化システムにおける適応型観測誤差膨張の有効性」
- ・瀬古弘 (気象研究所): 「メソアンサンブルと 1km-asuca を用いた豪雨解析」
- ・Ting-Chi Wu (理化学研究所): 「Examining the sensitivity of ensemble size to the accuracy of EFSO」
- ・James Taylor (理化学研究所): 「Convective-Scale Imbalance Induced by 30-Second Update Radar Data Assimilation」
- ・吉村 僚一 (東北大学): 「冬季の南関東で発生する晴天乱気流の高解像シミュレーションおよび飛行中の旅客機への影響解析」
- ・雨宮 新 (理化学研究所): 「富岳を用いた 2021 年夏の 30 秒更新リアルタイム降水予報実験」
- ・高須賀大輔 (海洋研究開発機構): 「NICAM を用いた大アンサンブル実験で見られた MJO の東進特性の分岐」
- ・升永 竜介 (東京大学): 「高解像度全球大気海洋結合モデルを用いた季節内から季節スケール予報の向上へ向けた取り組み」
- ・関山剛 (気象研究所): 「深層学習を使った気象シミュレーション代理モデルの可能性」
- ・田上 雅浩 (国立環境研究所): 「水同位体 NICAM 開発成果」